

# 別冊 おおいだものがたり

## ～資料館資料編～ ■「船役所設置230年 大石田川船役所の日常」展より

只今資料館では、「船役所設置230年 大石田川船役所の日常」展を開催中です。この企画展では古文書を中心にして船役所の日常業務を紹介していますが、一部当館ではあまり展示したことのない作品も出品しています。それが今回取り上げる柴田勝男作『大志田城』です。

この作品は縦41cm×横105cmの横長の画面に、横山側から見た大石田河岸の様子が描かれています。似たような構図で思い出すのは、お馴染みの『大石田河岸絵図』ではないでしょうか。河岸絵図は高い視線から見下ろしたように描かれており、これは「洛中洛外図」といった都市風俗図でよく採られる手法で、鳥瞰図にすることでより多くの情報を立体的に描けるという利点があります。しかしその反面、その視点の高さが現実離れしているせいで、どこか空想の中の世界といった隔たりを感じさせることがあります。それに対し、この『大志田城』は、地に足のついた人の目線で描かれています。つまり実際の目線に近いため、よりほんとうの景色に近い条件で再現されているといえます。

ここで描かれている大石田は、明治後期の大石田です。堤防ができるより以前の、川船が現役で使用され、川船役所の大門がしっかりとその存在を主張している、いまはなき大石田河岸の姿です。作者である柴田氏は明治生まれで、新聞記者を勤めた



後、晩年になって絵画制作に取り掛かったそうです。特に絵画を専門的に学んだわけでもなく、さらには生まれ育った大石田の記憶だけをたよりにこの作品を描き上げたといえます。それにしても驚くほど細部まで描き込まれており、古写真と比べてみても破綻を感じさせません。あるいは柴田少年はこのあたりを縄張りして遊びまわり、路地の隅々までを熟知していたのかもしれない。いずれにせよ柴田氏の記憶の中の大石田河岸が忠実に再現されており、さらにそれが色鉛筆で描かれているせいなのか、鑑賞者に得も言われぬノスタルジーを喚起させます。

現在我々がこの構図で対岸から眺めると、再現された船役所跡大門や塀蔵が見えます。その風景に見慣れた目には、昭和初期の写真ですら遠い過去の景色であり、時代的な断絶を否応なく感じてしまいます。しかしこの『大志田城』はそれよりもさらに昔を描いているにも関わらず、確実に現在とつながっていると信じさせる説得力があります。これは個人の思い出というフィルターを通すことで得られる少し特殊な再現性ともいえるかもしれません。

「船役所設置230年 大石田川船役所の日常」展は令和5年1月29日(日)まで



**大石田町公式アカウント開設**

**LINEはじめました**

防災情報などを  
受け取ることができます。

**友だち登録を  
お願いします!**

**登録方法**

右の二次元コードを読み  
取って友だちに追加して  
ください。



大石田町公式LINE

**防災放送の内容を  
電話で確認できます**

防災放送が聞き取りにくい、放送内容  
を確認したい等のご意見をいただき、町  
では防災放送確認ダイヤルサービスを開  
始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロ  
ディ等)放送を含め、直近の放送から8時  
間以内の内容を順次聞くことができます。

**確認ダイヤル: 0237-48-8444**

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和4年11月1日現在		
世帯数	2,252戸	(-4)
総人口	6,358人	(-13)
男	3,151人	(-6)
女	3,207人	(-7)
(10月中の異動)		
出生	0人	転入 5人
死亡	6人	転出 12人

※この人数は外国人も含めたものです。